

秋の佐藤訪米を断固阻止せよ！

「セクトよ、立上る時だ」

政府、独占資本は、自らの体制的危機を果し切る為全力をあげている。それは、制度的整備と東南アジア人帝因主義侵略体制の確立、そして、闘う労働者、学生、市の徹底的弾圧だ。とくに、四・二七破防法適用による革共同の本多、藤原岡氏の争前検挙に象徴的にあらわれている。

そのことは単なるセクトの問題ではなく、真に戦う部分の正殺を権力者側は意図していることを、我々は見抜かねなければならぬ。

四・二八沖縄奪還闘争、六月のアスパック粉碎闘争と気を休める暇もなく体制側は攻撃をしかけてきている現在、真に戦おうとする者は攻撃目標を設定し、体制側の攻撃を総力をあげて粉碎しなければ、弾圧の嵐に吹きまくられ、暗黒の谷間へと落ちこんでしまうであろう。

我々は現在どのような危機的状況に存在していることを直視すべきである。

戦うノンセクトの諸君！

我々人民の反撃体制はそれぞれセクトの強化と同時に、セクト、ノンセクトの区別することなく戦闘的労働者、学生、市民を先頭にあらゆる階級の人間を大衆的に結集し、日本帝国主義に階級的に果敢な反撃をすることによって、より強固なものになるであろう。とりわけノンセクトの諸君が現情勢を階級的に受けとめ、日本帝国主義打倒を目ざしそれこそ主体的に戦わなければならぬ。ノンセクトであるかゆえに、戦線後方に位置することや気まぐれは許されぬ。戦う者すべてがどろって前に出ようではないか。

明日のアスパック粉碎闘争と十一月のウラエフス、

佐藤訪米阻止にすべてを集中し、日本人民の革命的エネルギーを燃
せ、安保体制を粉碎しよう。

いちノンセクト

44
6
7